

## V 発生予察効率化推進事業

### 1 薬剤耐性菌検定

#### 1) かんきつ青かび病菌、緑かび病菌

##### (1) 目的

長崎県内におけるかんきつの青かび病、緑かび病薬剤耐性菌の発生状況を明らかにし、今後の防除対策の参考に資する。

##### (2) 採集及び検定内容

ア 11月中旬から12月中旬に早生温州を対象として、青かび病及び緑かび病の発病果実を1地点当たり2～5圃場で採集した。

イ 採集した果実から菌をPDA培地に単孢子分離し、検定薬剤の所定濃度を含むPDA平板培地に移植、25℃、48時間培養した後の菌系の伸長状況を測定して、耐性の有無を判定した。

ウ 検定薬剤は、トップジンM水和剤（チオファネートメチル：100ppm、350ppm）及びベフラン液剤（イミノクタジン酢酸塩：100ppm）を用いた。

##### (3) 結果（表参照）

ア トップジンM水和剤に対して、全ての調査地点で菌系は伸長せず、耐性菌は認められなかった。

イ ベフラン液剤に対して、全ての調査地点で菌系は伸長せず、耐性菌は認められなかった。

表 かんきつ青かび病菌、緑かび病菌の薬剤耐性検定結果

調査地点	トップジンM水和剤			ベフラン液剤	
	調査 菌株数	濃 度		調査 菌株数	濃 度
		100ppm	350ppm		100ppm
多良見町東園	3	0	0	3	0
長与町岡	3	0	0	3	0
時津町西時津	3	0	0	3	0
西彼町小迎	4	0	0	4	0
諫早市長田	3	0	0	3	0
大村市今村	4	0	0	4	0
東彼杵町赤木	3	0	0	3	0
瑞穂町伊福	5	0	0	5	0
北有馬町沢野	2	0	0	2	0
佐世保市長畑	4	0	0	4	0
合 計	34	0	0	34	0

※ 表中の数字は耐性菌株数を示す。

2) 野菜類灰色かび病菌

(1) 目的

長崎県内における野菜類灰色かび病菌の主要薬剤に対する感受性を早期に把握し、防除対策の参考に資する。

(2) 調査方法

ア 採集時期：1999年(平成11年)1～3月

イ 対象作物及び検定薬剤、濃度：

トマト、キュウリ	プロシミドン (スミレックス製剤)	5ppm	10ppm	100ppm
	チオファネートメチル (トップジンM製剤)	10ppm	100ppm	
	ジエトフェンカルブ (パウミル製剤)	0.3ppm	10ppm	100ppm
イチゴ	ジエトフェンカルブ (パウミル製剤)	0.3ppm	10ppm	100ppm

ウ 採集場所：トマト 佐世保市、南有馬町

キュウリ 佐世保市、有家町

イチゴ 長崎市、佐世保市、西彼町、東彼杵町、西有家町

エ 検定方法：採集した発病果実から分離した菌を、検定薬剤の所定濃度を含むPDA平板培地に移植し、20℃、48時間培養して菌糸の伸長の状況より耐性の有無を判定した。

(3) 結果

ア トマト

5菌株について検定を行った。その結果、プロシミドン及びチオファネートメチルの全検定濃度に対して5菌株中1菌株が耐性であった。また、ジエトフェンカルブの全検定濃度に対しては4菌株が耐性であった。

イ キュウリ

7菌株について検定を行った。その結果、7菌株中プロシミドンの全検定濃度に対して4菌株、チオファネートメチルの全検定濃度に対して6菌株が耐性であった。また、ジエトフェンカルブの全検定濃度に対して1菌株が耐性であった。

ウ イチゴ

32菌株について検定を行った。その結果、プロシミドンの全濃度に対して全菌株が感受性であった

表 野菜類灰色かび病菌の薬剤耐性検定結果 (平成10年度)

作物	場所	調査 菌株数	耐性菌株数 (耐性菌株率(%))								
			プロシミドン			チオファネートメチル		ジエトフェンカルブ			
			5ppm	10ppm	100ppm	10ppm	100ppm	0.3ppm	10ppm	100ppm	
トマト	佐世保市	4	0	0	0	0	0	4	4	4	
	南有馬町	1	1	1	1	1	1	0	0	0	
	計	5	1(20)	1(20)	1(20)	1(20)	1(20)	4(80)	4(80)	4(80)	
キュウリ	有家町	5	4	4	4	4	4	1	1	1	
	佐世保市	2	0	0	0	2	2	0	0	0	
	計	7	4(57)	4(57)	4(57)	6(86)	6(86)	1(14)	1(14)	1(14)	
イチゴ	長崎市	13	0	0	0						
	西彼町	6	0	0	0						
	佐世保市	3	0	0	0						
	西有家町	4	0	0	0						
	東彼杵町	6	0	0	0						
	計	32	0(0)	0(0)	0(0)						